

・明るく・温かく・明日に向かって



K J V A

高知県小学生バレーボール連盟

広報委員会通信

No, 11

令和4年 10 月 23 日

コンプライアンス委員会

令和4年度高知県小学生バレーボール連盟倫理研修は、ネットで公開されている「公益財団法人 日本オリンピック委員会 <https://www.joc.or.jp/about/entourage/>「アントラージュについて」コーチ指導者向け 15分程度のコーチングセミナー」の視聴と、この下欄にあります視聴後の感想の記入という形で実施しました。

全チームのご理解、ご協力を得て、各チーム関係者の感想等がそろいましたので、ご報告させていただきます。

時代は変わりました。よい方向に変わったと思います。選手のおもいを大切にしながら「スポーツをみんなで楽しむ」ことが、当たり前令和です。気持ちの良いさわやかなスポーツ環境を目指して、みなさんの視聴感想を軸に県小連は今後も前進していきます。

視聴後の感想（コンプライアンス委員会副委員長：竹村 記載）

私が今なぜジュニアバレーボール指導に邁進してきたのかが、よくわかりました。大変具体的に確かな情報提供・アドバイスばかりでした。

自分自身が古い時代に育った指導者であるということも自覚させられました。

これからのジュニアバレーボール指導者は、これらがわかった上でしかもボランティアで、この指導者の仲間入りをしないとイケません。ハードルが課せられます。果たしてこの人材不足のわが高知県において、このセミナーの内容にこたえていける方がジュニアバレーボール界に新しく出てきてくれるかどうか不安になります。また特に同世代やそれ以上の年齢の指導者さんたちも、考えを転換したり合わせたりしていかないと続けられません。残されたそう長くはない人生の貴重な時間、この世界でがんばっていただけるかどうか、不安が過ります。昭和・平成を生きた私たちに、本当に難しい時代になりました。

先輩たちが築きつないできてくれたこの県小連。この組織を次の世代に橋渡ししていくまで、私もあともう少しがんばりたいと思います。そしてこのセミナーの内容をしっかりと押さえ、県小連コンプライアンス委員会委員長とともに、令和にあった指導法を伝えていけるメッセンジャーとしての役割を果たしていきたいです。時代は変わったのです。バレーボール界やバレーボール指導も変わって当然なのです。



おすすめしたい一冊

いくら正しいことを伝えても、子どもの反抗的な態度や言葉、なげやりな様子、一方的な主張のくり返しに、支援・指導する側もイライラ。子どもとのやりとりが起きなければ、おそろくなにも変わりません。しかし、投げかける言葉しだいで、相手の反応は変わってきます。本書では状況を劇的に変える、子どもの心に響く対話術を紹介しています。いじめ、不登校などの困った場面を乗り越える！保護者との対話もうまくいくため指導者必読の書。！

アントラージュとは・・・

「アントラージュ」とはフランス語で取り巻き、環境という意味で、競技環境を整備し、アスリートがパフォーマンスを最大限発揮できるように連携協力する関係者のことを定義している。

平成25年度第3回理事会（平成25年6月28日開催）において、選手たちの最善の環境を提供し支援することを目的として、竹田恆和会長より以下の4つの役割を担うアントラージュ専門部会を設置することが提案され、高橋尚子部会長を中心に活動を行っている。

1. 選手に最善の環境を提供する活動に関すること
2. 選手の健康、社会的発展と倫理の保護に関すること
3. 選手を支援するすべての関係者の連携及び連絡調整に関すること
4. 選手、コーチ及び選手を支援するすべての関係者の教育・研修に関すること

各チーム関係者の感想から

○小学生スポーツは、やはり保護者のお手伝いは必須です。アントラージュの観点からも保護者とのコミュニケーションは大切で、「選手・指導者・保護者のまとめり」のあるチームを目指したいです。選手との関係・指導方法・選手一人ひとりへの視点等、まだまだ指導者としてレベルアップしなければならないと感じました。（第2ブロック）

○指導者がまずスポーツの指導を通して子どもたちにどのような生きる力を身につけさせたいのか、というものをきちんと持つことが大切だと思う。それを保護者やスタッフと共有しながら、指導にあたらなければならないと思う。指導者が常に成長し、勉強し続けることが子どもたちの幸せにつながっていくのであるから。（第4ブロック）

○主役である子どもたちが一瞬一瞬どう輝けるか、子どもたちが自分自身の成長を日々実感することができるか、そのために指導者として大切にすることを再認識することができました。指導者としては、子どもたちやチーム全体をよく観察し、今の状態や変化に気づく力が必要であり、小さな成長を見逃さずに言葉かけを行うことを大切にしている所です。プレイにおいては、子どもたちが理解することができるように、モデリングを示したり、時にはどうすべきかを示したり、発達段階に応じて伝え方を変えていくことも大事であると思いました。今後もチーム（自分）の方針を伝え、子どもたち、保護者、指導者が同じ思いを持ってバレーボールを楽しむことができるよう、指導方法やチーム運営の在り方を自問自答し、子どもたちが安心してバレーボールを楽しむことができるよう、日々研鑽していきたいと思えます。（第3ブロック）

○小学校段階では、選手が主体的に練習をするチームをつくることが大切であると感じた。そのために指導者が選手の良いところを見つけることやアンガーマネジメント、ポジティブトーク（ペップトーク）笑顔などを身につけていく必要性を感じた。（第4ブロック）

○指導をするにあたっては、勝ちにこだわる指導ではなく、一人ひとりの成長を意識している。スポーツを通して個人の役割や相手への思いやりや気配りができるように、言葉や態度などの接し方を意識している（第1ブロック）

○今回の動画で一番印象に残ったことは、「ダメなことははっきりいう事の大切さ（指導者の自己満足・感情をぶつけるのではなく、選手をよくするためであれば、言葉や態度で強く伝えることも手法の1つだということ）」「あいまいな人間関係よりも勝利に向かうことを優先する（勝利という目に見える成長基準を作る）ことで確実に人間的成長をすることができる」です。個人尊重というより、チーム力を育て、「人の気持ちのわかる」人間育成を実践していきます。（第1ブロック）